

平成27年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業)

| NO | 事業名 | 団体名 | 評価コメント |
|---------|----------|-----------|--|
| ■スタート助成 | | | |
| 1 | 河原塚史編纂事業 | 河原塚史編纂委員会 | <p>【会長】 自分の住む地域を知ること、地元への関心と親近感を起こし、それが地域活動へ一歩踏み出す土台になることは、まちづくり活動によく見聞する話です。この事業は、河原塚の地域史を発掘して読み物にするだけの話でなく、そのような未来へつながる価値を秘めた事業だと思います。この事業で培った地域史を掘り起こし読み物にするノウハウを市内の他地域の人たちに伝授し、まちづくり活動の土壌を耕すことにも役立てられることを願います。</p> <p>【委員】 その地域の歴史を編纂することは、地域の「財(たから)」「宝」である。それを「つづる」ことは、ことに地域住民自身の手で行われることは、地域の絆(ネットワーク)づくりに重要なことである。 成果物は「冊子発行」ということになろうが、毎回の冊子発行は頭が下がる思いがある。今回は、税金からの補助金をもらっていることもあり、この冊子を「本」にするということは説明責任をも果たしていると考えられる。 私自身もいろいろ伺いたい事業である。</p> <p>【委員】 地域・郷土愛を育てる活動に広げるために、協働事業への発展を考えて行かれると良いのではないかと思います。大変評価出来る。 特に連携先を、松戸市の教育委員会との関係を深めた方が良いのではないかと。</p> <p>【委員】 地域の歴史に真摯に取り組まれ、所期の目標を達成し、市立博物館との協力体制も確立されたことが素晴らしいです。今後も地域内での学校や地域住民への情報提供などを期待します。またこのような取り組みが他地域に波及されることが期待されます。</p> <p>【委員】 この活動は、地域の歴史掘り起こし活動のお手本になるのではないかと感じました。河原塚という限定された地域の歴史ですが、掘り起こしていくうちに様々な事に関わりが明確になってくることが、毎月の回覧板配布という活動で住民にも理解していくのが窺えます。次年度はいよいよ活動の総まとめとしての冊子の出版事業となりますが、ある程度の目途は立っているとお話がありましたので、完成するのが楽しみです。この事業を通じてメンバーの結束の強さが感じられますので、是非とも新たな活動に進んでいただければと思います。期待をしています。</p> <p>【委員】 より専門的に町の歴史を研究し住民に提供するという事業は、町への愛着を促し、コミュニティを豊かにすることにつながる。また、専門的な分野であり、多くの歴史的な情報を収集し、編集、提供するという地味な活動でありながら、住民から共感を得ており、支持され、さまざまな支援・協力が寄せられたところが成果につながっていると思う。</p> <p>【委員】 プロでなく、一般住民が自らの居住地域に関して歴史を調べるという大変いい仕事をされています。12月に発刊される冊子が楽しみです。 今後はこの成果と発刊物を通じて、住民や近隣の方々に歴史散策などを開催して広められるとよいと思います。 広報まつ日にはそのような企画がたくさん掲載されており、毎回多くの人たちが参加しています。そのような活動を通じて、世代移行していくのも可能かと思えます。</p> <p>【委員】 平成28年12月の冊子発行で事業完了とのことだが、地域の歴史等を広げる新たな情報発信を行なっていただきたい。 まさに地域の手作りの後世に残る冊子である。新たな歴史となる。</p> |

| | | | |
|---|---|--------------------------|--|
| 2 | 「カレーを食べる会」事業 | 五番街ふれあいセンター | <p>【会長】 カレーをはじめとした手料理の会食が持つ力、食事に来た人たちが「また次も楽しみに来たい」と思う運営の力に感じます。「名簿上の見守り」から「顔が見える見守り」になってきたことが、この事業が生み出した最高の価値だと思います。 五番街の菜園クラブ、男の料理教室ほか地元のいろいろな人たちとの関わりが、この事業に共感し支持する証しだと思います。周りからの期待が大きくなる分、頑張り過ぎないで他の団体へも役割と出番を振って、負荷を分散しながら「息切れ」しないようにしてください。</p> <p>【委員】 「カレー」を介して地域を振興するすばらしい試みが成果を出しているという所感である。 地域の住民とカレーを通して、他の活動へとつなげることがなされているのは、協働という観点、さらにガバナンス（コミュニティ・ガバナンス）としても理想的といえる。 最初、レトルトだったカレーも、手作りになるに従い、多くの方々と顔の見えるソーシャル・キャピタル構築がなされていることがみてとれる。「ソーシャル・キャピタル」という内閣府を挙げてのキーワードは、これからも重要である。その要素といわれている①「絆づくり」、②「お互い様の意識」、③「信頼」がカレーを通じて築かれていくのは、称賛に値する事業である。</p> <p>【委員】 ①「生きた見守り事業」として、大変評価出来ます。ボランティアスタッフの増加により、レトルトから手づくりになった点や（75名～80名）食材の提供、連携、地域力を高めている点がすばらしい。がんばって続けて行く仕組み作りをして下さい。</p> <p>【委員】 今後、体調等の理由で参加できなくなった人への対応検討をお願いします。</p> <p>【委員】 これからの高齢者社会を迎えて、様々な取り組みが行われている中で、「カレーを食べる」をキーワードとしたシンプルな活動です。月1回の食事会も休みなく継続し、毎回限られた予算の中でメニューにも工夫を凝らして、参加意欲を誘う感じが窺えます。継続することで参加者も徐々に増え、食事会の懇談も活発になったとの報告がありましたが、無理なく交流が深まっていくことに、高い評価できます。また、子供会との交流を始めたとの報告がありましたので、更なる広がりを感じることができました。今後助成金が無くても継続できるように工夫をしていただき、ほかの地域の見本となるような活躍を期待したいと思います。</p> <p>【委員】 カレーを食べる会事業は参加者も増え、提供する食事内容も充実し、広がりを感じる。今後ますますニーズがあることから、運営参加者も増員が必要だと思われる。メンバー募集も工夫し、安定的に継続できるよう期待する。</p> <p>【委員】 単にカレーを食べるというだけでなく、返事の来ない方々へのフォローが素晴らしいと思います。わざわざ安否確認ということではなく、食べる会への出欠をとるといふ、具体的な行動に移すことで、双方の心の負担も軽減される効果があると思います。 会場の制約から、会員をいくらでも増やせるわけではありませんから、近隣の会場へと水平展開をできるといいですね。その際、原点のレトルトでスタートするのでいいでしょう。手作りということになると、ハードルが高く続きにくいと思います。 このような活動が、市全域に広がると市の経済的負担も軽減されるので、是非、協働事業へ展開されることを望みます。</p> <p>【委員】 「食」という字は「人」を「良くする」と書きますが、本当に人を良くする、楽しくする事業だと思います。 他地域との連携を深め発展させてほしい。</p> |
| 3 | 伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験の講演会・ワークショップ事業 part2 | 東日本大震災復興支援 松戸・東北交流プロジェクト | <p>【会長】 指定避難所までの街歩きマップづくりは、住民の目線で防災や減災を具体的に考えるのに有効な入口だと評します。 好評だった危機管理課の講座を街歩きマップづくりと連動させて開催すると、街歩きでの気づきが知識に変わったと思います。別々の開催でしたが、次に同様のことをされる場合は、その点に留意されるのが宜しいと思います。 栗ヶ沢中学校地域防災委員会、減災・福祉パートナーズとの連携は、貴団体の活動を活性化させると期待できます。</p> <p>【委員】 1つの事業であるが、他の団体ともつながるという意識がある当該事業は、これからの市民協働のかたちとして大いに評価できる。 また、世代間の交流も意識している団体のあり方は、地域活動の理念型として、松戸だけでなく、全国に広げてほしい。次世代育成としての観点を含めて、市との協働をますます推進すべきである。事業を通じたローカルガバナンス（協治）は、松戸市の財産である。</p> <p>【委員】 防災に必要なマップ作りを通して、市民の目線で作り上げる危機管理意識の啓蒙することが大切である。連携を広げていくことを、すすめていってほしい。良い活動として評価できる。</p> <p>【委員】 「街歩きとマップ作りワークショップ」事例が、町会・自治会等へ広く伝わり、各地で実施されることを期待します。</p> <p>【委員】 現在進められている防災に関する活動は、そのほとんどが5年前の東日本大震災に誘発されて生まれたものと思います。そして先日の熊本地震において、防災に対する認識が一挙に高まった気がします。そんな中でのこの活動は注目を集めるのではないのでしょうか。防災の意識を高める方法はいくつかありますが、ここにあるように街歩きも有効な手段です。いざ避難する時に、何も知らないで逃げるのと、ある程度情報を持った中で逃げるのでは大きな差が出ます。このような取り組みを各地域に広げていただければ、いざという時に大いに役立つのではないのでしょうか。</p> <p>【委員】 防災マップづくりは、住んでいる地域で具体的に実施することが望ましいと思われる。参加者それぞれの地域や家庭で参考にするには、それなりの対応する講座内容が必要である。 今後展開するこの種の事業は、より効果的な対象者を設定するよう検討していただきたい。</p> <p>【委員】 災害意識、防災意識は日常生活の中で埋没しがちです。小さくてもいいから、少しずつ根気よく続けることが重要でしょう。栗ヶ沢中学校地域防災委員会などと連携しながら、あちこちに輪を作り連携していくと面へと発展していけます。 ぜひ、お隣さんへの声掛けでの水平展開を図られることを期待します。</p> <p>【委員】 「街歩き」はとても良い視点の活動で、それぞれの地域で行えるような取組みを期待する。</p> |

| | | | |
|---|--------------------------|------------|---|
| 4 | 認知症の啓発活動と患者・家族の支援体制づくり事業 | 松飛台自治会連合会 | <p>【会長】 患者と家族が暮らし続けられる地域の支援体制づくりに一歩を踏み出そうとした点をおおいに評価します。それは一朝一夕で実現するものでないのですが、例えば3年後、5年後の「ありがたい姿」を想定しながら、一旦仕切り直して再開して欲しいです。</p> <p>【委員】 事業成果を踏まえて「今後の予定」が出されていたので、「解散」と伺い、遺憾に思う。このような取り組みを行うような団体が新たに誕生することを望む。目標の達成度が低いようであるが、これから成果が現れるところだったと思う。今回のような事業を踏まえて、この地区の新たな「地区連」がその活動に取り組んでほしい。</p> <p>【委員】 高齢者の相談員の数が増加した等の、成果が出ている良い事業で、評価できるのに、継続出来ないことが残念です。</p> <p>【委員】 折角の町会・自治会の取り組みでしたが、実施本体が揺らいでしまったことが残念です。</p> <p>【委員】 最近テレビでよく取り上げられるテーマとして認知症があります。これからの高齢化社会を見据えると世の中益々深刻な状況になっているものと思います。そんな中での地域による認知症対策ということで意義のある取り組みではないかと期待をしていました。しかしながら団体そのものが解散をしたことにより、本日の発表は中止となったのは残念な結果です。</p> <p>【委員】 事業報告書から読み取れることとして、運営側に協力するスタッフが少なかったのではないかとと思われる。当初からの運営体制づくりが難しかったことがうかがわれる。5回の講演会には参加者も多く、今後どのように地域づくりに活かしていけるのか、今後の活動を検討いただきたい。報告会で直接、お目にかかれなかったことは残念である。</p> <p>【委員】 せっかく多く自治会を集合してできたのに、解散されるのは残念です。何か意思の疎通に齟齬があったのでしょうか、その点を反省して、再生に向けた努力目標とされるといいかと思えます。でも、閉じるにしてもきちんと責任をもってあたりましょう。</p> <p>【委員】 何らかの形で再開できることを期待する。</p> |
| 5 | けん玉で遊ぼう事業Ⅱ | 昔のあそびと遊ぼう会 | <p>【会長】 けん玉は「昔の懐かしい遊び」でなく、「いまの格好よい遊び」だと実感しました。それは参加人数の多さが示しています。けん玉教室を介して「子どもの達成感」「家族のコミュニケーションづくり」に寄与している様子が伺い知れ、この事業の効用に感心します。地域おこしの点で言えば、市内外から多くの人たちがけん玉教室へ参加している様子から、「けん玉と言えば六実」となり始めているのではないかと思うぐらいです。</p> <p>【委員】 事業展開も着実に進み、助成金も有意義に使われていたと評価できる。松戸市を中心として、近隣自治体内との地域の連携が行われている。また、次世代育成事業のツールとしてのけん玉は有意義である。その際、いかに若年層を巻き込んでいけるか、教育委員会をはじめとした行政との連携を継続していけるかというところが課題となろう。HP、チラシ等の広報が求められる。その専門的知識を持った地域の人材をどのように活用するかが重要である。今後の課題解決のために、新たな力を期待したい。</p> <p>【委員】 ①異世代交流事業としてすばらしい事業と評価できます。5年間と継続して来て、今後の課題は、次世代育成だと思えます。がんばってください。 ②地域の学校、他地域への広がりがあり、正に連携のすばらしさが光っています。</p> <p>【委員】 六実支所との協力体制ができたことに、今後の市民活動と行政との連携を促進させるきっかけになると思っています。けん玉をツールに地域の子供と大人のさらなる交流ができると嬉しいです。</p> <p>【委員】 根強い人気のある「けん玉」遊びは、今や世界各地でも認知されているようです。こちらの事業であるけん玉教室も、毎月の開催に平均43名の参加があり、熱のこもった様子が窺えます。又親子での参加も多く、けん玉を通じての親子のコミュニケーションも十分に達成できているのではないのでしょうか。上の段位を目指すという目的でリピーターも多くいると思いますが、参加者の出身地域を見るとかなり広い地域に渡り、今後とも更に活発な活動を期待します。</p> <p>【委員】 この事業は、けん玉教室の開催で多世代交流を実践するというシンプルな活動であるが、回を重ねることで新たな参加者を掘り起こし、地域で支持される活動につながっている。けん玉をとおして地域コミュニティを育みながら次の展開につなげていただきたい。</p> <p>【委員】 けん玉に限定することでよくやってこられたと感心します。当初は単品で行けるか不安もあったかと思いますがよく展開されました。今回で助成事業は卒業されるようですが、地域でのさらなる展開はもちろん、できたネットワークを通じて、活躍の場がさらに広がること（水平展開）を期待します。</p> <p>【委員】 後継者ができて、助成金も要せず事業が継続できることは本当にすばらしいです。しかしながら予算的に本当に大丈夫なののでしょうか、心配するところです。</p> |

| | | | |
|---|--|---------------------------|--|
| 6 | 外国人の子ども支援を考える事業 | 認定NPO法人 外国人の子どものための勉強会 | <p>【会長】 「外国人の子ども」が置かれている状況に対する理解を広め深める努力に敬意を表します。町会の人々が講座に参加したのは、この問題は当事者の子どもや家族の個別事情の話でなく、地域社会全体に関わる話であると理解する「突破口」になるとを期待します。貴団体に加えて町会や学校など「外国人の子ども」に関係するところが協力し合い、彼らの未来の選択肢が少しでも増えることを願います。</p> <p>【委員】 「多文化共生」が謳われる現在、松戸では重要な事業である。当該事業をどこが主体となって推進するかが難しいところである。それを当該団体は担っている1つの団体であるという意味で、今後も頑張ってほしい。 対象者である子ども及びその保護者の参加を含めて、外国人の子どもの将来も真剣に考慮している点はすばらしい。その際、いかに町会や他のNPOや地域団体を巻き込んでいくかが課題となる。近隣から、松戸市は外国人にとって住みやすい地域であると評判になる活動を展開してほしい。</p> <p>【委員】 ①外国人の子ども支援の他の団体との情報交換や連携をよりすすめて行ってほしい。すばらしい事業だと思います。 ②せっかくですので、この活動を通して、地元松戸市立高校への、外国人作りとか、改善に役立てていただければと思います。</p> <p>【委員】 地元町会の参加が、今後も増えるような状況を期待します。学校・教師との協力体制ができることを期待します。</p> <p>【委員】 将来において日本の人口は着実に減ることが予想される中で、外国人の流入も積極的に受け入れざるを得ない状況が予想されます。そんな中で外国人の子供達が少しでも早く日本に馴染めるような支援が必要になります。この活動は外国人の子供の高校受験をサポートするという明確な目標を掲げ、実践的な活動を進めているとの印象を受けました。その活動は単に受験勉強にとどまらず各国の文化の交流の場にもなっているようです。このような活動があることが世界に対して日本のイメージを良くする要因になるのではないかと思います。</p> <p>【委員】 外国にルーツを持つ子どもたちの学校生活や進学、就職の困難さを当事者も語るプログラムに共感が広がったのではないかと。そして、新たな支援者、寄付者、参加者の獲得につながっていると思う。この課題を松戸市民が広く共有するために、今後も工夫した内容で継続していただきたい。</p> <p>【委員】 外国の子供たちが、日本の中で、生活力を得られるように育てることは重要なことと思います。特にアジアの遅れた、第2、第3集団への手助けについては私自身大いに興味あるところですが、 実際、カンボディア、ラオス、スリランカ、ブータンなどに行きたくて目にするのは、我々が少しでも手助けしたいという気を起こさせます。これらの活動により、子供たちが帰国したときはそれぞれの国の発展に力を発揮してくれるでしょう。</p> <p>【委員】 関係機関との連携を図ることも大切だと思います。</p> |
| 7 | 知っておくと安心！ 食品の安全な取り扱い手帳を市民に手渡ししたい～講演会の実施等で～事業 | 食の安全安心を考える市民の会 | <p>【会長】 購入した後の食品の安全に着目した点が新鮮です。添加物や原料由来などは購入時に気にしますが、購入後の生ものや野菜の管理は冷蔵庫に依存して疎かになりがちで、調理する際の衛生管理もぞんざいであることも気がつかされました。注目度が高まっている取り組みですが、貴団体の「できることを無理せずにする」のが大切で、他団体と協力するやり方も含めて、台所における食品安全の普及啓発に取り組まれることを願います。</p> <p>【委員】 松戸市内にある大学の公開講座から発展したこの団体の活動は、市民活動の一類型として評価できる。 「手帳」発行から、その普及活動に展開しているこの事業は、次なる活動へとつながっていく可能性を秘めている。それが何なのか明確にし、「戦略」を考える時期に来ているだろう。マスコミにも取り上げられていることから、今後の展開も周囲からの期待が大きい。そのために、行政ではないので強調はできないが、数年度の計画や戦略の策定、そして外部からの透明性を高めていくことが求められる。</p> <p>【委員】 ①この貴重な情報を、Web上に公開してほしいと思います。紙レベルも大切であるが、情報は広げることが大切だと思います。 ②後継者育成(子育て世代の育成)をがんばっていただきたいと思います。</p> <p>【委員】 重要な「食」の問題、今後も多くの人たちへの啓発を期待します。できれば、地元生産者との交流ができればうれしいことです。</p> <p>【委員】 「食育」という言葉がある様に、命の源となる食事について正しい知識を持つことは重要なことです。世の中に出回っている食材は全てが安全優先という訳でもなく、知らないうちに「毒」を口にしてしまうこともありうるのではないのでしょうか。そんな中でこの活動の様に講演会とワークショップを通じて食の安全の知識を広めていくことは大変評価のできる活動ではないかと思います。出来ましたら更に多くの人々にその情報が行き渡る様に活動を継続して下さい。</p> <p>【委員】 子育て世代に伝えたい内容の講演会であるが、参加を促す工夫を検討していただきたい。例えば、託児室を設けるとか子どもの帰宅時間への配慮をした開催時間にするなど考えられないかと思われる。</p> <p>【委員】 安心を伝え、はぐくむ活動は大切です。 単に、安全です、というだけでは、心の問題の“安心”には伝わりません。手帳という目に見える形のもので理解を得ることは大事だと思います。</p> <p>【委員】 食に関しては誰もが関心を持っていることであると同時に、その安全性等も常に問われており、冊子作成にあたっては、社会情勢の変化で大変だと思いますが、がんばって下さい。</p> |

■ステップアップ助成

| | | | |
|---|------------------------------|---|---|
| 1 | <p>団塊シニア世代の 地域デビュー事業</p> | <p>認定NPO法人たすけあ いの会ふれあいネッ トまつど</p> | <p>【会長】 25人（講演会参加者の2割）が体験活動へ参加したのは、まずまずの歩止まりだと思います。これと類似した事業に長らく関わってきた経験から述べますと、団塊シニア層が抱く地域デビューへの期待やこの事業へ参加して獲得したいこと、協力団体の思惑などの分析を深めて事業設計を改善し、併せて団塊シニアの個別相談を含めた丁寧な対応が地域デビューを実現させます。その点を踏まえて、この事業を続けられることを願います。</p> <p>【委員】 毎年、継続的に講演会を担われ、この企画も大変であると推察できる。講師の選定、依頼そして毎年の運営、今後も続けてほしい。地域デビューは退職した世代にとっては難しいといわれている。さらに、デビューした後の彼らの継続的な参加をいかに維持していくかが問われる。当該事業は前者にウェイトが置かれている。後者にも当該団体の意識が理解できる。これからの課題としては、前者と後者とのつながり、そして展望を明確にされることが挙げられる。税金が拠出されていることから成果は何かという指標を設定されることが肝要であろう。</p> <p>【委員】 団塊シニア世代の地域デビュー事業は、団塊（800万人の人口）の人々にとって、支援するためのニーズを捉えるための、きちんとした成果分析のためのアンケート調査（項目作り、分析結果の公表、改善に役立てる）と分析をしていただきたいです。</p> <p>【委員】 市民活動を模索している市民にとっても、仲間を増やしたい活動団体にとっても、貴重な事業ですので、今後も継続していただきたいと思います。</p> <p>【委員】 これから益々高齢化が進む日本において、高齢者に対する様々な支援活動がある中で、シニア世代が社会と関わっていくことをサポートしていく活動は大変ユニークな存在ではないでしょうか。シニア世代といえども多くの方が気持ちは現役です。今回の他の協働事業においても高齢者の活躍は目覚ましく、関わっている人々は生き生きと見えます。これは日本の社会にとって大切な財産であり、それを有効に生かす為にもこの活動を発展させていただければと思います。</p> <p>【委員】 講演会、講座への参加者の属性や年代、市民活動に対する理解や参加ニーズなどが不明であり、体験を受け入れた団体からのヒアリングもなく、この事業が果たして団塊世代の地域デビューに効果があったか否かがわからない。実施したことから事業目的にどこまで達成することができたのかに観点をおいた事業報告書を期待したい。</p> <p>【委員】 いろいろな団体・組織でも行われていますので、自らの特徴を明確にし、努めてください。報告書は簡潔にまとめられていてよいのですが、もう少し具体的な説明があると、さらに良くなります。</p> <p>【委員】 19年続いているNPO団体として、しっかりアンケートやヒアリングを実施する等、事業の分析を行なってほしい。</p> |
|---|------------------------------|---|---|